



社団法人全国地質調査業協会連合会

会 長 瀬 古 一 郎

この度は東北地質調査業協会が創立50周年を迎えられ、まことにおめでとうございます。

貴協会は、昭和34年に東北ボーリングさく井協会として創立され、昭和37年には全地連設立に参画、昭和38年に現名称に改称され、今日に至るまで東北地方における地質調査業の技術力向上、社会的地位の向上、経営改善などに努めてこられました。そして、公共事業を通して地域の安全・安心に大きく貢献し発展されたことは、まことにご同慶の至りです。近年は建設投資の縮減、入札契約制度の変革、品質確保や情報化などの多様なニーズへの対応が求められる中で、歴代の理事長はじめ役員の皆様ならびに会員の皆様には多大なご尽力とご苦勞もあつたものと、心から敬意を表する次第です。また、これも偏に国土交通省はじめ地方自治体の発注機関の皆様のご指導とご鞭撻の賜物であつたものと、全地連を代表して感謝を申し上げる次第です。

貴協会には地質調査技士および地質情報管理士の資格検定試験や登録更新講習に毎年ご協力をいただいております。また、平成17年には全地連技術e-フォーラム仙台、昨年はジオパークフォーラム東北が開催され、幹事協会として盛況のうちに運営いただいております、心から御礼を申し上げる次第です。最近では貴協会と国土交通省東北地方整備局や県との意見交換会が定例化され、公共事業の品質確保についての議論や防災協定などが進展しました。そうした中で昨年は岩手宮城内陸地震が発生し、また、地すべりや土砂・斜面の災害も頻発しています。防災・減災を進める上で、市民が自ら身近な地質を理解していくことは重要であり、貴協会の活動に一層期待があつまると思われれます。

日本は4つのプレートの境界が近接する変動帯の上に位置し、造山活動が活発で地質構造が複雑です。地質は地域によって異なっており、災害や自然環境に密接に関わって、歴史や文化という地域性にも大きな影響を与えていると思われれます。これからの少子高齢化や地球温暖化の時代において、インフラ整備や既設インフラの更新・維持管理で、地域の地象を熟知する地質調査技術者がその専門性を発揮することは、地域に根ざした生活環境づくりのために不可欠と思われれます。今後、地質リスクマネジメントやジオパーク活動などの新たな領域をも広げつつ、地域の地質を判読し、地象を予見し、事業の中で反映・具現し、社会へわかりやすく説明して、ひいては貴協会が地域再生へ貢献していくことが大きな役割であると信じているところです。

この創立50周年を一つの節目として、次なる10年に向けて地質調査の技術力向上に努められ、貴協会ならびに会員の皆様がますます発展されることを祈念して、ご祝辞とさせていただきます。